

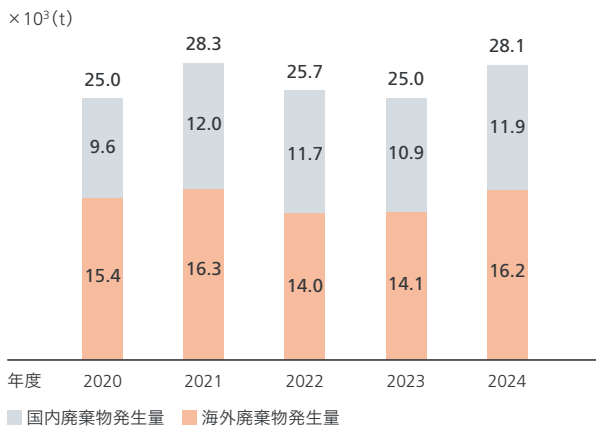


資源の有効活用と循環型社会構築への貢献

廃棄物の取り組み

2024年度におけるグループ全体の廃棄物発生量は、2023年度の25.0千tから28.1千tに増加しました。有価物を含む廃棄物の内訳は、廃プラスチック類、廃油、汚泥が大部分を占めています。太陽誘電では、引き続き、廃棄物発生量を削減し、廃棄物の社内リサイクル率を高めるとともに、海外拠点における再資源化を強化していきます。

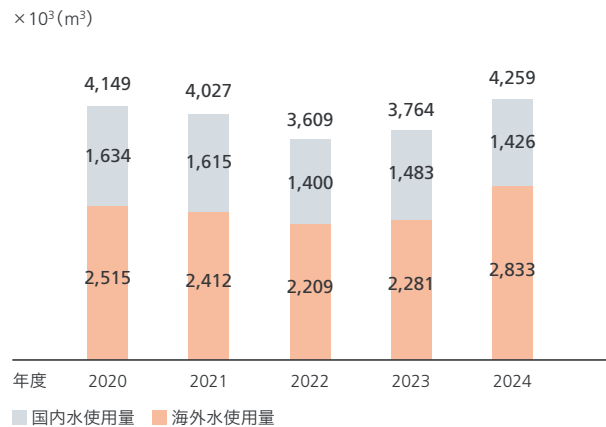
廃棄物発生量



水資源の取り組み

2024年度のグループ全体の水使用量は、2023年度の3,764千m³から4,259千m³に増加しました。内訳では、国内拠点が2023年度の1,483千m³から1,426千m³に減少、海外拠点が2023年度の2,281千m³から2,833千m³に増加しています。取水量の内訳は、地方自治体の水道(または他の水道施設から)の取水が3,918千m³、淡水・地下水からの取水が341千m³となっています。水のリサイクル量は648千m³でした。

水使用量



取水量(×10 ³ m ³)	
地方自治体の水道 (または他の水道施設から)	3,918
淡水・地下水	341

2024年度の取り組み例

生産方法変更による廃液の削減

[玉村工場・TAIYO YUDEN (SARAWAK)]

電子部品の生産プロセスの一部では、生産設備の清掃に溶剤を使用しており、清掃に使用した後の溶剤は廃液として適切に処理しています。生産方法を見直し、清掃に使用する溶剤の量を減らすことで、廃液の発生量を削減できました。削減した廃液の排出量は140t/年でした。

廃水リサイクルによる節水

[新潟太陽誘電]

電子部品を生産する工程では様々なプロセスで水を使用しています。一部の生産工程から排出された水を回収し処理した後、インフラ設備で再利用することで、使用する水を削減できました。削減した水は64,332t/年でした。